

壁紙施工要領書
- スポンジエース・スポンジエース N -

■ 特長

スポンジエース、スポンジエース N は、掲示板用の内装材です。バックリングは布裏（メリヤス地）になっています。
スポンジエースは非防火商品ですが、スポンジエース N は防火対応品で、石膏ボード下地との組合せで「準不燃」仕上げとなります。

■ 下地調整

- ①石膏ボード、ベニヤ合板下地の場合
- ・石膏ボードおよび合板の継目部分をパテ処理し、平滑にしてください。
 - ・釘の頭が出ている場合は、下地面より沈めるよう金槌等で打ち込みます。
- ②モルタル下地の場合
- ・モルタル表面に付着している砂、ホコリ等を取り除き、シーラーで下地調整をして乾燥させてください。

■ 接着剤

- ・接着剤は、でん粉系の接着剤にエチレン酢ビ系ボンド（ヤヨイ化学工業製「プラゾール SS」等）を（石膏ボード、ベニヤ合板で約 30%、モルタルで約 40～50%）混合し、糊：水＝10：6～7 程度を目安にしてください。（水分の多い薄い糊の場合、壁紙が糊自体を吸い込んでしまい、接着力が低下します。）

■ オープンタイム

- ・接着剤を下地側に塗布する向こう糊施工になります。下地側へは均一に塗布してください。

■施工

- ・腰が強く自重のある商品なので、癖がつかず出入隅の納めにやや難点があります。納まりが悪い場合、エチレン酢ビ系ボンドを捨て糊での対応が有効です。(下地によっては四方回りをボンドのみで納めることも有効です。)
- ・ジョイントは重ね裁ち(ダブルカット)で納めるようにしてください。(石膏ボード等の下地の場合、下地面まで切りつけないようにしてください。)突き付けでの糊のはみ出しを防止します。

■その他

- ・厚み(1.0mm)がありますので、比較的下地の不陸は拾いにくい商品です。

壁紙施工要領書
- スポンジエース LP -

■ 特長

- ・ スポンジエース LP は、吸音効果を持たせるためピンホール加工を施しています。バックキ
ングは布裏（メリヤス地）です。

■ 下地調整

- ①石膏ボード、ベニヤ合板下地の場合
 - ・ 石膏ボードおよび合板の継目部分をパテ処理し平滑にしてください。
 - ・ 釘の頭が出ている場合は、下地面より沈めるよう金槌等で打ち込みます。
- ②モルタル下地の場合
 - ・ モルタル表面に付着している砂、ホコリ等を取り除き、シーラーで下地調整をして乾燥
させてください。

■ 接着剤

- ・ 接着剤は、でん粉系の接着剤にエチレン酢ビ系ボンド（ヤヨイ化学工業製「プラゾール
SS」等）を（石膏ボード、ベニヤ合板で約30%、モルタルで約40～50%）混合し、
糊：水＝10：6～7 程度を目安にしてください。（水分の多い薄い糊の場合、壁紙が糊自
体を吸い込んでしまい、接着力が低下します。）
※商品自体にピンホール加工を施しておりますので、商品裏面に接着剤を塗布すると、
表面に染み出る場合があります。

■ オープンタイム

- ・ 接着剤を下地側に塗布する向こう糊施工になります。下地側へは均一に塗布してくださ
い。

■施工

- ・腰が強く自重のある商品ですので、癖がつかず出入隅の納めにやや難点があります。納まりが悪い場合、捨て糊等での対応が有効です。(下地によっては四方回りを生ボンドで納めることも有効です)
- ・ジョイントは重ね裁ち(ダブルカット)にて納めるようにしてください。(石膏ボード等の下地の場合、下地面まで切りつけないようにしてください。)突き付けでの糊のはみ出しを防止します。
- ・エア抜きの際、強くなで付け過ぎると、表面の穴から接着剤が染み出し変色する場合がありますので注意してください。

■その他

- ・厚み(1.0mm)がありますので、下地の不陸は比較的拾いにくい商品です。

壁紙施工要領書

- スポンジエース TP -

■ 特長

- ・ スポンジエース TP は、テープ掲示板用の内装材です。バックングは紙裏になっています。
- ・ 防火対応品で、石膏ボード下地との組合せで「準不燃」仕上げとなります。
- ・ 一般のビニル壁紙にくらべ、やや硬い傾向があります。そのためカールの発生や、寒冷時には出入隅部などの納まりが悪くなる場合があります。そのため、一般ビニル壁紙に比べ施工難易度が高く、施工費が割増になる場合があります。
- ・ フィルムによるツヤがありますので、天井は、壁面よりも光の加減で下地が見えやすく、不向きです。あらかじめご了承ください。

■ 下地調整

- ・ 施工後の、下地の不陸の目立ちを避けるために、下地はできるだけ平滑に仕上げるようにしてください。
- ・ ネジ、釘類には錆止めを施してください。施工後の錆による変色を防ぎます。
- ・ 下地と同色の樹脂入りパテを使用するようにしてください。強度の弱いパテはハガレの原因となります。
- ・ 湿式工法による下地（コンクリート、モルタルなど）や、パテ・シーラーを施した場所は十分に乾燥（水分率11%以下）していることを確認してください。未乾燥状態での施工は壁紙の変色やカビの発生を招くことがあります。
- ・ ケイカル板、粉ふき下地、ペンキ下地、化粧板、パーテーション等、接着性の悪い下地は必ず下地別のシーラーを塗布してください。シーラーは下地を補強し壁紙のハガレや目開きを防ぎます。
- ・ コンクリート・モルタル下地、ベニヤ・合板下地、金属下地でも、必ず下地別のシーラーを塗布してください。壁紙と下地の間に皮膜を形成し、下地からのアクによる壁紙の変色を防ぎます。

■接着剤と養生・オープンタイム

- ・接着剤は、でん粉系のものを使用し、下地との接着強度アップのため、ボンド配合のもの（ヤヨイ化学工業製「ルーマイルド」、ウォールボンド工業製「グルー96α」等）を濃い目（糊：水＝10：7を目安）にしてください。
- ・接着剤塗布後は、うませ時間を20～30分程度とって作業を進めてください。冬季・低温時には後伸びによるフクレを防ぐため少し長めにとってください。
- ・接着剤塗布後はタタミジワが付かないよう大きくたたみ、上積みは避けてください。フィルムが折れてしまいタタミジワが発生する場合があります。

■張り付け・ジョイント

- ・一般的な塩ビ壁紙に比べてややカール癖がつきやすい傾向があります。特に芯に近い部分や寒冷地では材料を逆巻きにする等、カール癖を取ってから施工するようにしてください。
- ・なかなかカール癖が取れない場合は、ジョイント部分にエチレン酢ビ系ボンド（ヤヨイ化学工業製「プラゾールSS」等）を原液で捨て糊する等の処置を施してください。
- ・吸水性の低い下地（シーラー塗布面、化粧板、金属板、コンクリート等）に施工する場合は、プラスチック製のヘラを使用し繰り返し何度もエア抜きを行なってください。接着剤の水分を下地が吸収しにくいために、あと伸びによるフクレが発生することがあります。
- ・石膏ボード下地等で重ね裁ち（ダブルカット）を行なう場合は、下地まで切り込まないようにしてください。目開きの原因となります。（壁紙と下地の間に下敷きを入れる、和紙テープを張り込む、といった注意が重ね裁ちの場合は必要です。）
- ・ローラー掛けは、あまり強く押し付けたり片側だけに力をかけ過ぎないでください。癖が残ったり傷や光沢の原因になります。
- ・なで付け、エア抜きの際に力を入れて横なでをすると乾燥後目開きの原因になることがあります。
- ・5℃以下の環境では糊の接着力が弱くなり、フクレや施工不良の原因となります。また、壁紙自体も硬くなりますのでご注意ください。

■コーナー材の使用について

- ・コーナー材を使用する場合は、穴あきタイプが有効です。穴あきタイプ以外では接着剤が乾燥せず、壁紙が浮いたり、カビ発生の原因となる場合があります。ただし、穴あきタイプをご使用の場合でも使用環境や施工状況によっては、壁紙の浮きやカビが発生する場合があります。あらかじめご了承ください。

■施工後

- 施工後は接着が安定するまで自然乾燥させてください。特に、冷暖房などによる急激な室温の変化は避けてください。目開き、はがれの原因になります。
- 施工後は接着剤の拭き残しがないよう、きれいに拭き取ってください。拭き取りが不十分な場合、変色の原因になることがあります。なお、拭き取る際は、きれいな水に頻繁に替えながら濡れスポンジなどでていねいに拭き取り、更にキレイなタオルなどで拭き取ってください。

壁紙施工要領書
- ニューマックライン -

■ 特長

- ・50×50mmの方眼のラインが出るようにエンボス加工されていますので、掲示物をまっすぐきれいに貼れます。
- ・バックリングは不織布裏になっています。
- ・変色、退色しにくく、耐久性にすぐれています。
- ・弾力性に富み、ピンホールの復元力が強く画鋸のあとが目立ちにくい商品です。

■ 下地調整

①石膏ボード、ベニヤ合板下地の場合

- ・ボードおよび合板の継目部分をパテ処理し、平滑にしてください。
- ・釘の頭が出ている場合は、下地面より沈めるよう金槌等で打ち込みます。

②モルタル下地の場合

モルタル表面に付着している砂、ホコリ等を取り除き、シーラーで下地調整をして乾燥させてください。

■ 接着剤

- ・接着剤は、でん粉系の接着剤にエチレン酢ビ系ボンド（ヤヨイ化学工業製「プラゾールSS」等）を（石膏ボード、ベニヤ合板で約30%、モルタルで約40～50%）混合し、糊：水＝10：6～7程度を目安にしてください。（水分の多い薄い糊の場合、壁紙が糊自体を吸い込んでしまい、接着力が低下します。）

■ オープンタイム

- ・接着剤を下地側に塗布する向こう糊施工になります。下地側へは均一に塗布してください。

■施工

- ジョイントは重ね裁ち（ダブルカット）での対応が充分可能ですが、厚みがあるため、材料に対しカッターの刃を少しねかせて角度をつけてカットし突きつける方法もジョイントの目立ちが少なく有効です。
- 腰が強く自重のある材料なので、癖がつかず出入隅の納めにやや難点があります。納まりが悪い場合、エチレン酢ビ系ボンドを捨て糊での対応が有効です。（下地によっては四方回りをボンドのみで納めることも有効です。）

■その他

- S タックなどの両面テープ使用でも対応できます。

壁紙施工要領書

- ソフトコルク -

■ 特長

- ・ソフトコルクは、掲示板用の内装材です。バックリングは布裏（メリヤス地）になっています。
- ・特にセロハンテープ等での掲示に対して粘着適性がよく、掲示物のハガレや落下がしにくくなっています。
- ・1.5mmの厚みがありますので、弾力性に富み、ピンホールの復元性が強く画鋲の跡が目立ちにくい商品です。
- ・天然の木質粉を使用していますので、ナチュラル感があります。

■ 下地調整

- ①石膏ボード、ベニヤ合板下地の場合
 - ・石膏ボードおよび合板の継目部分をパテ処理し、平滑にしてください。
 - ・釘の頭が出ている場合は、下地面より沈めるよう金槌等で打ち込みます。
- ②モルタル下地の場合
 - ・モルタル表面に付着している砂、ホコリ等を取り除き、シーラーで下地調整をして乾燥させてください。

■ 接着剤

- ・接着剤は、でん粉系の接着剤にエチレン酢ビ系ボンド（ヤヨイ化学工業製「プラゾールSS」等）を（石膏ボード、ベニヤ合板で約30%、モルタルで約40～50%）混合し、糊：水＝10：6～7程度を目安にしてください。（水分の多い薄い糊の場合、壁紙が糊自体を吸い込んでしまい、接着力が低下します。）

■ オープンタイム

- ・接着剤を下地側に塗布する向こう糊施工になります。下地側へは均一に塗布してください。

■施工

- ・腰が強く自重のある材料なので、癖がつかず出入隅の納めにやや難点があります。納まりが悪い場合、エチレン酢ビ系ボンドを捨て糊での対応が有効です。（下地によっては四方回りをボンドのみで納めることも有効です。）
- ・ジョイントは重ね裁ち（ダブルカット）で納めるようにしてください。（石膏ボード等の下地の場合、下地面まで切りつけないようにしてください。）突き付けでの糊のはみ出しを防止します。

■その他

- ・厚みがありますので、比較的下地の不陸は拾いにくい商品です。

壁紙施工要領書
- エコルティ -

■素材・特長

- ・残材コルク 100%を使用した商品です。(非防火商品)
- ・裏打加工を施しておりませんので、両面使用できます。

■下地調整

①石膏ボード、ベニヤ合板下地の場合

- ・ボードおよび合板の継目部分をパテ処理し、平滑にしてください。
- ・釘の頭が出ている場合は、下地面より沈めるよう金槌等で打ち込みます。

②モルタル下地の場合

モルタル表面に付着している砂、ホコリ等を取り除き、シーラーで下地調整をして乾燥させてください。

■接着剤

- ・接接着剤は、下地側に接着剤を塗布する向こう糊施工にて、エチレン酢ビ系ボンド（ヤヨイ化学工業製「プラゾール SS」等）を原液で使用し、夏期等で乾燥が早い場合は、でんぷん系の接着剤を 10～20%程度混合してください。

■オープンタイム

- ・接着剤を下地側に塗布する向こう糊施工になります。下地側へは均一に塗布してください。

■施工

- ・ジョイントは重ね裁ち（ダブルカット）での対応が充分可能ですが、厚みがあるため、商品に対しカッターの刃を少しねかせて角度をつけてカットし突きつける方法もジョイントの目立ちが少なく有効です。
- ・出入隅部の処理は、商品厚みがあり納めにくいため、コーナー部にエチレン酢ビ系ボンド100%を捨て糊した方が納まります。

■その他

- ・天然素材のため、色調にムラがある場合があります。また、多少の左右の色及び厚みに差が生じる場合があります。あらかじめご了承ください。
- ・直射日光による退色が生じる場合があります。

壁紙施工要領書
- JM マグネット -

■ 特長

- ・ JM マグネットは、マグネットでの掲示が可能です。バックングは不織布裏です。

■ 下地調整

① 石膏ボード、ベニヤ合板下地の場合

- ・ ボードおよび合板の継目部分をパテ処理し平滑にしてください。
- ・ 釘の頭が出ている場合は、下地面より沈めるよう金槌等で打ち込みます。

② モルタル下地の場合

- ・ モルタル表面に付着している砂、ホコリ等を取り除き、シーラーで下地調整をして乾燥させてください。

■ 接着剤

- ・ 接着剤は、下地側に接着剤を塗布する向こう糊施工にて、エチレン酢ビ系ボンド（ヤヨイ化学工業製「プラゾール SS」等）を原液で使用し、夏期等で乾燥が早い場合は、でんぷん系の接着剤を 10～20%程度混合してください。

■ オープンタイム

- ・ 接着剤を下地側に塗布する向こう糊施工になります。下地側へは均一に塗布してください。

■ 施工

- ・ 材料が重く柔軟性に欠けるため、エア抜きは丁寧に行ない、十分圧着してください。
- ・ 施工時にカルコ（押しピンの大きなもの）等で仮押えしながら作業を進めてください。
- ・ 復元性が強いいため、出隅・入隅の施工は避けてください。

■その他

- ・切り付けが厳しく隙間が発生しやすいため、小口廻りでは同色系のジョイントコークを使用してください。

壁紙施工要領書

- ホワイトボードスクリーン -

■ 特長

- ・ ホワイトボードスクリーンは、マーカーをお使い頂けます。また、プロジェクターの映写適正がよく、マグネットでの掲示も可能です。バックリングは布裏（メリヤス地）です。

■ 下地調整

- ① 石膏ボード、ベニヤ合板下地の場合
 - ・ ボードおよび合板の継目部分をパテ処理し平滑にしてください。
 - ・ 釘の頭が出ている場合は、下地面より沈めるよう金槌等で打ち込みます。
- ② モルタル下地の場合
 - ・ モルタル表面に付着している砂、ホコリ等を取り除き、シーラーで下地調整をして乾燥させてください。

■ 接着剤

- ・ 接着剤は、下地側に接着剤を塗布する向こう糊施工にて、エチレン酢ビ系ボンド（ヤヨイ化学工業製「プラゾールSS」等）を原液で使用し、夏期等で乾燥が早い場合は、でんぷん系の接着剤を10～20%程度混合してください。

■ オープンタイム

- ・ 接着剤を下地側に塗布する向こう糊施工になります。下地側へは均一に塗布してください。

■ 施工

- ・ 商品が重く柔軟性に欠けるため、エア抜きは丁寧に行ない、十分圧着してください。
- ・ 商品重量がありますので、持ち運びには十分注意してください。
- ・ 復元性が強く、また、曲げた跡が残りやすいため出隅・入隅の施工は避けてください。

■その他

- ・切り付けが厳しく隙間が発生しやすいため、小口廻りでは同色系のジョイントコークを使用してください。